



若き担い手と農の匠が語る 未来の富田林の農業



岡農とみどり推進課 (内線 443)



本市で新たに農業を始めた若者と新規就農者創出に取り組む農の匠による座談会を開催し、吉村市長も参加しました。座談会では、若手新規就農者の農業に対するさまざまな思いや農の匠からの熱いエールを聞くことができました。

若手新規就農者それぞれの思い

■農業を志すようになったきっかけ

山本さん 兵庫県の農業大学校で畜産を専攻していました。が、畜産をするにあたり農業の大変さや体力的なきつさを感じ、一度ネイリストへ転職しました。そして、農家を営む主人との結婚を期に、家族を楽にする農業がしたいという主人の想いを受け、この人と一緒ならともう一度農業を始めました。

明石さん 自然が好きで、自然の中にあることができるのがいいなと思います。農業を始めました。



石田さん なす、きゅうり農家の4代目です。人が食べて喜んでもらえるものを作りた、農と触れ合える機会を作り、富田林市の活性化につなげたいという思いで農家を継ぎました。

■農業をしていく上で出てきた課題

《従業員の利用について》

船崎さん 農業を始め、続けるにつれて農地も拡大していきます、忙しい時期は収穫などを両親にも手伝ってもらっている状況です。今後は、従業員の雇用やコミュニケーションの取り方などが課題と感じています。

■《農地を無駄にしないために》

中塚さん 将来的に経営を安定させるためにも、今ある農地の規模を縮小するのではなく、拡大していきたいと考えています。その中で、耕作放棄地や引退される農家の農地を目にすることもあり、それらを空いた状態のままにするのはもった



いないので、有効活用していただければと思っています。



▲座談会の様子

これからめざしていく農家のあり方

山本さん インバウンドの活性化に備えて、市内外からたくさんの方が来た時にさまざまなことができるような場を作ったり、富田林市の特産品を作ったりしていきたいです。

高島さん 出荷基準規格を満たしたナスを作り、きつちりとした市場にきつちりとした値段で売れるように頑張っていきます。



▲未来へつなぐ若き担い手と本市が誇る農の匠

房本さん まずは、自立して収入を安定させることが目標です。将来的には、農福連携した農園にし、福祉施設に通う人たちが作る野菜で色々な人がつなぐればいいなと思います。

市來さん これからも経験を積んで栽培知識などをしっかり学んでいき、その学んだ知識をいかした感覚でできる農業をめざします。



～農の匠からのメッセージ～

「農の匠」とは、優れた農業経営を行っていることはもちろんのこと、青年農業者の育成や食育活動に積極的で、地域農業のリーダーとして活躍している農業者を、大阪府知事が認定する制度です。

8月2日現在、大阪府内では81人が認定されている中で、本市では次の3人が認定されています。

■どのような農家に育ってほしいか（乾さん）

今ある農地を大事にできる農家になってください。規模を拡大したい、利益を出したいという意識は大切ですが、農地を本当に大事に思っている人が作らないと何もいいものは育ちません。また、私自身、父親や近所の人に農業についてさまざまなことを教えてもらいながら続けてきたので、皆さんもこれから学んでいくことを次の代へ引き継げるような農業をしていってください。

■農の匠が目指す今後の農業（中筋さん）

今までのような単なるものづくりの農業では厳しくなってきたのに加え、地方と都市農業では抱える課題に違いもあります。その中で、今後の農業が発展していくためには、観光農園などの意見もありますが、やはり人材育成が大切であり、農業に携わってくれる人を創出しないといけないと考えています。そのためにも、今一步踏み出そうとしている皆さんのような若い人たちの活躍の場を作っていくことが自分の役目であると思っています。



▲左から乾さん、中筋さん、古川さん

■本市の農業の将来について（古川さん）

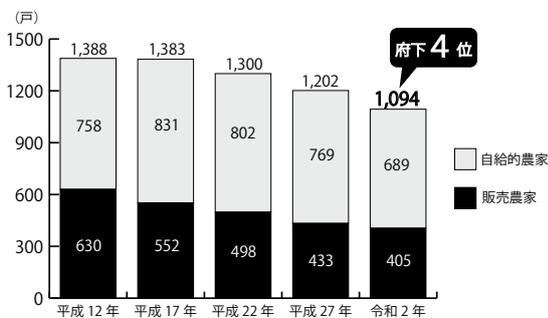
これからは高齢化がさらに進み、農業を続けることが難しくなる農家も増えてきますので、皆さんのように新たに農業を担ってくれる人は、規模の拡大も視野に入れながらどんどん耕作してもらいたいと思います。どうしたら理想の形になるか、みんなで考えながら人材も作物も育てていきましょう。

数字で見る富田林市の農業

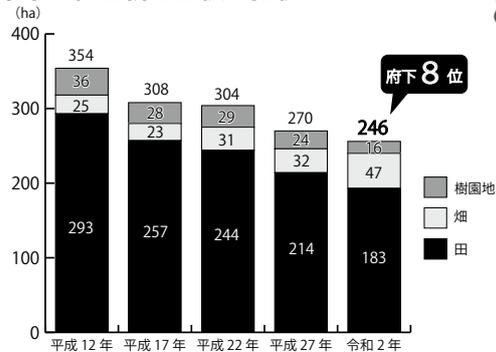
あなたはどのくらい知っていますか？



◆本市の農家戸数の推移



◆本市の経営耕地面積の推移



◆本市が誇る農産物の品目別ランキング（府下）

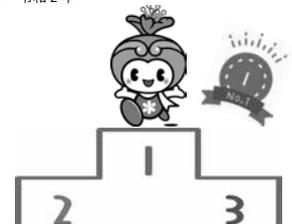
施設栽培のナスの耕地面積

- 1位 富田林市 12.37ha
- 2位 貝塚市 4.23ha
- 3位 岸和田市 3.55ha



施設栽培のキュウリの耕地面積

- 1位 富田林市 11.08ha
- 2位 和泉市 1.96ha
- 3位 河南町 0.93ha



※農林水産省「2020年農林業センサス」、近畿農政局「令和2年近畿農林水産統計年報」を基に作成。

高齢化や後継者不足などにより、農家戸数や経営耕地面積は減少傾向ではあるものの、府下43市町村の中でも10位以内と上位を維持しています。中でも、施設栽培のナスとキュウリに着目すると、耕地面積は府下でも圧倒的第1位です。西板持地区を中心に指定産地となっており、基本的に1年を通して同じビニールハウスでナスとキュウリを交互に栽培しています。また、西板持地区を中心に一部の農家では希少価値の高いエビイモが盛んに栽培されています。

他にも、市内農家のほとんどがコメの栽培をしているため水稻が盛んであり、さらには、イチゴやスイカを作る農家数は府下で一番多く、採卵鶏の羽数については府下でも圧倒的第1位です。